

目次

半導体・情報数理専攻（博士前期課程）

- (1) 入学定員設定の考え方 P. 2
- (2) 入学定員充足の見込み P. 2
- (3) 学生確保に向けた具体的な取組（予定を含む。）と見込まれる効果 P. 4
- (4) 養成する人材の社会的要請や人材需要の動向 P. 4

半導体・情報数理専攻（博士後期課程）

- (1) 入学定員設定の考え方 P. 6
- (2) 入学定員充足の見込み P. 6
- (3) 学生確保に向けた具体的な取組（予定を含む。）と見込まれる効果 P. 7
- (4) 養成する人材の社会的要請や人材需要の動向 P. 7

学生の確保の見通し等について

半導体・情報数理専攻(博士前期課程)

1.入学定員設定の考え方

半導体・情報数理専攻(博士前期課程)(以下、「本専攻」という。)の入学定員は120名に設定している。

まず、既存(改組前)の機械数理工学専攻の入学定員から10名、情報電気工学専攻の入学定員から40名、合計50名(①)を本専攻に振り替える。

振替人数については、機械数理工学専攻の数理工学教育プログラムを履修する学生の2019～2023年度入学者平均が9.6人、情報電気工学専攻の情報工学教育プログラムを履修する学生の2019～2023年度入学者平均が41.4人であることを踏まえ、設定した。<表1>

	入学年度					
	2019	2020	2021	2022	2023	平均
機械数理工学専攻数理工学教育プログラム	8	6	4	10	20	9.6
情報電気工学専攻情報工学教育プログラム	37	39	36	37	58	41.4

<表1> 入学年度別履修者数

次に、令和6年度に設置した情報融合学環の入学定員60名、工学部半導体デバイス工学課程の入学定員40名(1年次入学20名+3年次編入学20名)の卒業生が本専攻に進学することが想定され、自然科学教育部への進学率が70%(本専攻への進学が想定される本学工学部既存学科の直近2023年度卒業生を対象)であることを踏まえ、情報融合学環60名×70%=42名、工学部半導体デバイス工学課程40名×70%=28名、合計70名程度(②)が進学すると見込まれる。

以上のことから、①と②を合計した120名を入学定員としている。

なお、国の産業政策や地域のニーズにスピード感を持って対応するため、情報融合学環及び工学部半導体デバイス工学課程の学年進行を待つことなく、令和7年度に本専攻を設置し、いち早く社会に人材を輩出する。

2.入学定員充足の見込み

(1)熊本大学工学部からの進学者

本専攻の受験意向を把握するため、本学工学部3年次生573名を対象にアンケート調査を実施した。【資料1】

調査期間:2023年11月13日～2024年1月19日

回答者数:463名(回答率80.8%)

回答内容を分析した結果、以下の①②③全ての条件に合致する回答者は60名(ア)であった。

加えて、①②④全ての条件に合致する回答者13名に近5年平均入学率(入学者/合格者)93%<表2>を乗じた12名程度(イ)の入学者が見込まれる。

① 問5の「5. 卒業後の進路について、どのように考えていますか?」の設問に「①大学院に進学」と回答した者

- ② 問6の「次の進学先のうち、どこを受験したいと思いますか？」の設問に「①熊本大学自然科学教育部 半導体・情報数理専攻(仮称)」と回答した者
- ③ 問7の「設問6で回答した進学先に合格した場合、入学を希望しますか。」の設問に「①入学する」と回答した者
- ④ 問7の「設問6で回答した進学先に合格した場合、入学を希望しますか。」の設問に「②併願校の可否によって判断する」または「③その他状況によって判断する」と回答した者

① の回答者(A) 325 名	
① +②の回答者(B) 73 名	
①+②+③の回答者(C) 60 名	①+②+④の回答者(D) 13 名

また、卒業後の進路で大学院に進学と回答した者(上記A)の回答者に占める割合が70%(325名/463名)であることから、アンケート未回答者110名のうち77名程度(110名×70%)が大学院に進学することが見込まれる。

次いで、アンケート未回答者のうち大学院に進学することが見込まれる77名に上記の入学希望率(C/Aの割合)18%を乗じると13名、また、入学見込率(D/A×近5年平均入学率93%)を乗じると2名となることから、アンケート未回答者からも15名程度(ウ)の入学者が見込まれる。

	入学年度					平均
	2019	2020	2021	2022	2023	
合格者	399	395	372	400	423	93%
入学者	368	370	350	373	391	
入学率(入学者/合格者)	92%	94%	94%	93%	92%	

<表2> 自然科学教育部博士前期課程入学者選抜における入学率(理学専攻を除く)

(2)外国人留学生

本専攻に関連する既存(改組前)の機械数理工学専攻数理工学教育プログラム及び情報電気工学専攻情報工学教育プログラムの2023年度入学者が15名であることから、本専攻においても15名程度(エ)の入学者が見込まれる。(コロナ禍による影響を踏まえ、分析対象を直近の2023年度入学者のみとしている。)

(3)他大学・高専からの入学者

本工学部情報電気工学科の3年次編入学志願者が2023年度入試58人から2024年度入試102人(1.8倍)に増加し、また、情報融合学環の学校推薦型選抜Ⅱ及び一般選抜前期日程の2024年度志願倍率が共に3.8倍となっており、学内に留まらず昨今の半導体・情報分野への高い関心が顕著に現れている。

現在、他大学・高専からの志願者は近3年で5名程度であるが、昨今の半導体・情報分野の高い関心を踏まえ、20名程度(オ)の入学者を見込んでいる。

推薦入試に他大学・高専出身者を主な対象とした自己推薦型選抜を新たに導入し、さらに、半導体、情報、数理に係る専門分野のバックグラウンドに持たない学生が受験するにあたって修学上の不安を解

消するためにリメディアル教育を実施することや奨学金等の経済的支援などの取組を行うことで、20名の入学者確保は可能であると見込んでいる。

上記の(ア)～(オ)を合計すると、本専攻の入学定員120名を超える122名となり、加えて、本学卒業生・修了生にもアンケート調査【資料3】を行い、本学半導体・情報数理専攻へ受験したいと回答した者が87名いることから社会人からも一定数の入学者を確保できると考えており、定員を充足できる見込みである。また、2028年度入学者以降は情報融合学環及び工学部半導体デバイス工学課程の卒業生が本専攻に進学することから中長期的にも十分に定員充足が可能である。

3. 学生確保に向けた具体的な取組(予定を含む。)と見込まれる効果

学生確保には、入試の仕組みだけでなく、社会の実情など、正しい情報を共有する機会を増やす必要があるため、web経由での申し込みにより少人数でも、誰でも(学生、保護者など)、何回でも開催するオンライン入試説明会を実施する。また、令和7年度入試に向けて、推薦入学の枠を広げ、特に高専の専攻科、他大学の卒業生等を対象にした自己推薦型入試(書類審査+面接試験)を新設する。以上の取組についてはパンフレットを作成し、積極的に広報活動を行う。

広報にあたっては、本学以外の学校を卒業した学生に十分な情報を与え、また内部進学生と比較して不利な試験とならないように周知し、学生確保につなげる。

博士前期課程においては、アジア地区7大学との間でダブルディグリープログラムを締結しており、締結している大学との情報共有を密に行い、留学生を積極的に獲得する。

また、様々な既存の奨学金制度に加えて、令和6年度から半導体関連研究に従事する成績優秀な学生にはTSMC奨学金、台湾本社でのインターンシップの機会が与えられるなど修学にあたり必要な経済的支援を充実させる。

これらの取組により情報格差、環境格差、経済的格差を是正することで、受験生が増加し、学生確保につなげる。

4. 養成する人材の社会的要請や人材需要の動向

国際経営開発研究所(IMD)の試算によれば、日本のデジタル競争力は28位(米国1位、韓国12位、英国14位、中国15位、ドイツ18位、フランス24位)となっており、特に、デジタル/技術スキルやビッグデータの分析と活用、国際経験等の項目において他国に比べて後れをとっている状況にある。更に、国内に目を転じると、社会経済情勢の変化、技術開発の動向等については、生産性や利便性を飛躍的に高めるデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進が産業、教育、行政等のあらゆる分野において求められている一方、IT人材需給に関する試算では、人材のスキル転換が停滞した場合、2030年には先端IT人材が54.5万人不足するという調査結果もある。

デジタル田園都市国家構想の検討においては、全ての労働人口がデジタルリテラシーを身に付け、デジタル技術を活用できることを目指すとともに、専門的なデジタル知識・能力を有し、デジタル実装による地域の課題解決をけん引する人材を「デジタル推進人材」(ビジネスアーキテクト、データサイエンティストなどを想定)と位置づけ2024年度末までに年間45万人育成する体制を整え、2026年度までに230万人の育成を目指すことが示されている。

これらを踏まえ、熊本県では、「くまもとDXグランドデザイン」を策定し、大学間連携や地域連携を推

進し、産・学・官・金が連携して地域社会で活躍できる次代を担うデータサイエンティスト、データエンジニア、アーキテクトなどのデジタル人材の育成・輩出を掲げている。

また、熊本県は半導体生産及び半導体製造装置の世界トップシェア企業を擁しており、200 社を超える半導体関連企業が存在し、さらに、世界最大の半導体メーカーTSMCの第一工場稼働が2024 年末、2027 年の稼働を目指し第二工場の着工が予定されている。電子情報技術産業協会(JEITA)が示した今後 10 年間の半導体人材は少なくとも 4 万人程度の追加が必要とされ、九州の半導体産業における人材不足は、短期的(1~3 年)にも、中長期的(4~10 年)にも、年間 1,000 人程度になる見込みが示されている。

以上のことから、産業界や地域において、デジタル・半導体に係る高度情報専門人材の育成が求められている。

(1)企業等、卒業生・修了生へのアンケート調査

本学工学部卒業生・大学院自然科学教育部修了生の採用実績のある企業等の人事担当者に対して、本専攻が育成する人材の必要性や採用意向について、アンケート調査を実施した。【資料 2】

調査期間:2023 年 11 月 13 日~2023 年 11 月 24 日

有効回答数:230 社

回答内容を分析した結果、「半導体・情報数理専攻(仮称)が育成する人材について、実社会で必要だと思われませんか?」という設問に対し、「①極めて必要である」と回答した企業等が 149 社、「②どちらかという必要である」と回答した企業等が 66 社であり、回答した企業等の 90%以上が本専攻が育成する人材の必要性を評価している。

また、「半導体・情報数理専攻(仮称)を修了した博士前期課程(修士)の学生の採用意向について」の設問に対し、「①是非採用したい」と回答した企業等が 112 社、「②採用に向けて前向きに検討したい」と回答した企業等が 74 社であり、回答した企業等の 80%以上が本専攻修了生を採用する意向を示している。

加えて、「リカレント教育、リスクリングの観点から、貴社・貴団体の社員・職員を本学大学院に入学させたいと思われませんか?」という設問に対し、「半導体・情報数理専攻に入学させたい」と回答した企業等が 29 社あり、リカレント教育、リスクリングの観点からも一定の評価を得ている。

次いで、本学工学部卒業生・大学院自然科学教育部修了生についても、本専攻が育成する人材の必要性について、アンケート調査を実施した。【資料 3】

調査期間:2023 年 11 月 13 日~2023 年 11 月 24 日

有効回答数:344 名

回答内容を分析した結果、「半導体・情報数理専攻(仮称)が育成する人材について、実社会で必要だと思われませんか?」という設問に対し、「①極めて必要である」と回答した者が 183 名、「②どちらかという必要である」と回答した者が 128 名であり、回答した者の 90%以上が本専攻が育成する人材の必要性を評価している。

以上のことから、本専攻が育成する人材については、社会的要請に応えるものとなっており、社会的な人材需要の見通しを踏まえた計画である。

半導体・情報数理専攻(博士後期課程)

1.入学定員設定の考え方

半導体・情報数理専攻(博士後期課程)(以下、「本専攻」という。)の入学定員は 22 名に設定している。

まず、既存の工学専攻(博士後期課程)(入学定員 46 名)の近 5 年平均入学者数が約 30 名であり、定員充足に至っていない。<表1>

	入学年度					
	2019	2020	2021	2022	2023	平均
工学専攻	29	21	39	25	39	30.6

<表1> 自然科学教育部工学専攻(博士後期課程)入学者数

工学専攻(博士後期課程)において定員を満たしていない 16 名分と工学専攻(博士後期課程)で情報・数理を専攻する学生 6 名分を合計した 22 名を新設する本専攻に振り替える。

情報・数理を専攻する学生 6 名については、工学専攻の応用数理教育プログラムを履修する学生の 2019~2023 年度入学者平均が 1.0 人及び先端情報通信工学教育プログラムを履修する学生の 2019~2023 年度入学者平均が 5.0 人であることを踏まえ、設定した。<表2>

	入学年度					
	2019	2020	2021	2022	2023	平均
工学専攻応用数理教育プログラム			1	1	1	1.0
工学専攻先端情報通信工学教育プログラム	5	2	5	3	10	5.0

<表 2> 入学年度別履修者数

なお、国の産業政策や地域のニーズにスピード感を持って対応するため、博士前期課程の学年進行を待つことなく、令和 7 年度に本専攻を設置し、いち早く社会に人材を輩出する。

2.入学定員充足の見込み

工学専攻(博士後期課程)において情報・数理を専攻する 2023 年度入学者が 11 名であることから、本専攻においても 11 名程度(ア)の入学者が見込まれる。(コロナ禍による影響を踏まえ、分析対象を直近の 2023 年度入学者のみとしている。)

さらに、

- ①デジタル・半導体研究分野の世界トップ大学である台湾国立重点 4 大学(台湾大学、清華大学、陽明交通大学、成功大学)と MOU を締結し、ダブルディグリーを実施するなど海外大学との学生交流を推進すること
- ②世界最大の半導体メーカーTSMC の子会社 JASM の博士卒基本給が月給 36 万円に設定されるなどデジタル・半導体に係る博士人材の必要性が給与等の処遇面からも顕著になっていること
- ③本学工学部卒業生・大学院自然科学教育部修了生の採用実績のある企業等の人事担当者に対してアンケート調査を実施した結果、本専攻の学生の採用意向について、「①是非採用したい」と回答した

企業等が73社、「②採用に向けて前向きに検討したい」と回答した企業等が88社であり、回答のあった230社の7割が採用意向を示していること、また、「リカレント教育、リスキリングの観点から、本専攻に入学させたい」と回答した企業等が19社あり、博士人材の社会的需要が明らかになっていること。【資料2】

④修士の学位を取得し企業等へ就職している社会人に対して授業料の半額相当分の奨学金を支給すること

などの取組を行うことで、(ア)と合わせて22名以上の入学者確保は可能であると見込んでいる。

また、2027年度入学者以降は博士前期課程の修了者が本専攻に進学することから中長期的にも十分に定員充足が可能である。

3. 学生確保に向けた具体的な取組(予定を含む。)と見込まれる効果

博士後期課程進学者を増やすために、本教育部の博士後期課程を修了し、博士号をもって企業等で活躍しているOB/OGの講演会・交流会を開催する。また少人数でも、誰でも(学生、保護者)、何回でも開催するオンライン説明会を実施する。

博士後期課程においては、欧州、アジアの13大学との間でダブルディグリープログラムを締結しており、締結している大学との情報共有を密に行い、留学生を積極的に獲得する。

また、採択されている2件(情報電気分野、化学分野)の国費外国人留学生優先配属プログラムにおいても留学生の確保に取り組む。

経済面から支える取組としては、熊本大学独自の熊本大学大学院博士課程奨学金(KDS)、熊本大学大学院博士課程奨学金給付制度(KFD)に加え、今年度採択された国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の次世代研究者挑戦的研究プログラム(Spring)事業や日本学術振興会の特別研究員等を組み合わせ、修学にあたり必要な経済的支援を充実させる。また、留学生や社会人学生に対しては、熊本大学の工学系基金を利用した新たな奨学金制度を導入する。

その他、令和6年4月にTSMCとの産学協同連携協定を締結し、TSMCが提供する講義や台湾本社でのインターンシップ等、半導体の開発・製造の現場を体験する豊富な機会が与えられる。

これらの取組により情報格差、環境格差、経済的格差を是正することで、受験生が増加し、学生確保につながる。

4. 養成する人材の社会的要請や人材需要の動向

国際経営開発研究所(IMD)の試算によれば、日本のデジタル競争力は28位(米国1位、韓国12位、英国14位、中国15位、ドイツ18位、フランス24位)となっており、特に、デジタル/技術スキルやビッグデータの分析と活用、国際経験等の項目において他国に比べて後れをとっている状況にある。更に、国内に目を転じると、社会経済情勢の変化、技術開発の動向等については、生産性や利便性を飛躍的に高めるデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進が産業、教育、行政等のあらゆる分野において求められている一方、IT人材需給に関する試算では、人材のスキル転換が停滞した場合、2030年には先端IT人材が54.5万人不足するという調査結果もある。

デジタル田園都市国家構想の検討においては、全ての労働人口がデジタルリテラシーを身に付け、デジタル技術を活用できることを目指すとともに、専門的なデジタル知識・能力を有し、デジタル実装による地域の課題解決をけん引する人材を「デジタル推進人材」(ビジネスアーキテクト、データサイエンテ

ィストなどを想定)と位置づけ 2024 年度末までに年間 45 万人育成する体制を整え、2026 年度までに 230 万人の育成を目指すことが示されている。

これらを踏まえ、熊本県では、「くまもと DX グランドデザイン」を策定し、大学間連携や地域連携を推進し、産・学・官・金が連携して地域社会で活躍できる次代を担うデータサイエンティスト、データエンジニア、アーキテクトなどのデジタル人材の育成・輩出を掲げている。

また、熊本県は半導体生産及び半導体製造装置の世界トップシェア企業を擁しており、200 社を超える半導体関連企業が存在し、さらに、世界最大の半導体メーカー TSMC の第一工場稼働が 2024 年末、2027 年の稼働を目指し第二工場の着工が予定されている。電子情報技術産業協会 (JEITA) が示した今後 10 年間の半導体人材は少なくとも 4 万人程度の追加が必要とされ、九州の半導体産業における人材不足は、短期的 (1~3 年) にも、中長期的 (4~10 年) にも、年間 1,000 人程度になる見込みが示されている。

以上のことから、産業界や地域において、デジタル・半導体に係る高度情報専門人材の育成が求められている。

(1) 企業等、卒業生・修了生へのアンケート調査

本学工学部卒業生・大学院自然科学教育部修了生の採用実績のある企業等の人事担当者に対して、本専攻が育成する人材の必要性や採用意向について、アンケート調査を実施した。

調査期間: 2023 年 11 月 13 日~2023 年 11 月 24 日

有効回答数: 230 社

回答内容を分析した結果、「半導体・情報数理専攻 (仮称) が育成する人材について、実社会で必要だと思いますか?」という設問に対し、「①極めて必要である」と回答した企業等が 149 社、「②どちらかという必要である」と回答した企業等が 66 社であり、回答した企業等の 90% 以上が本専攻が育成する人材の必要性を評価している。

また、「半導体・情報数理専攻 (仮称) を修了した博士後期課程 (博士) の学生の採用意向について」の設問に対し、「①是非採用したい」と回答した企業等が 73 社、「②採用に向けて前向きに検討したい」と回答した企業等が 88 社であり、回答した企業等の 70% が本専攻修了生を採用する意向を示している。

加えて、「リカレント教育、リスクリングの観点から、貴社・貴団体の社員・職員を本学大学院に入学させたいと思われませんか?」という設問に対し、「半導体・情報数理専攻 (博士) に入学させたい」と回答した企業等が 19 社あり、リカレント教育、リスクリングの観点からも一定の評価を得ている。

次いで、本学工学部卒業生・大学院自然科学教育部修了生についても、本専攻が育成する人材の必要性について、アンケート調査を実施した。

調査期間: 2023 年 11 月 13 日~2023 年 11 月 24 日

有効回答数: 344 名

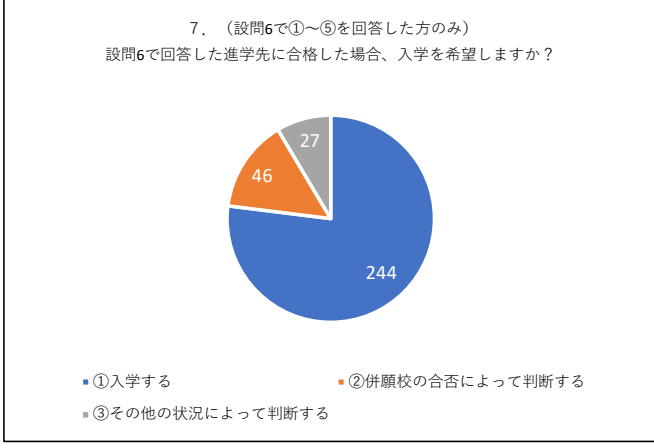
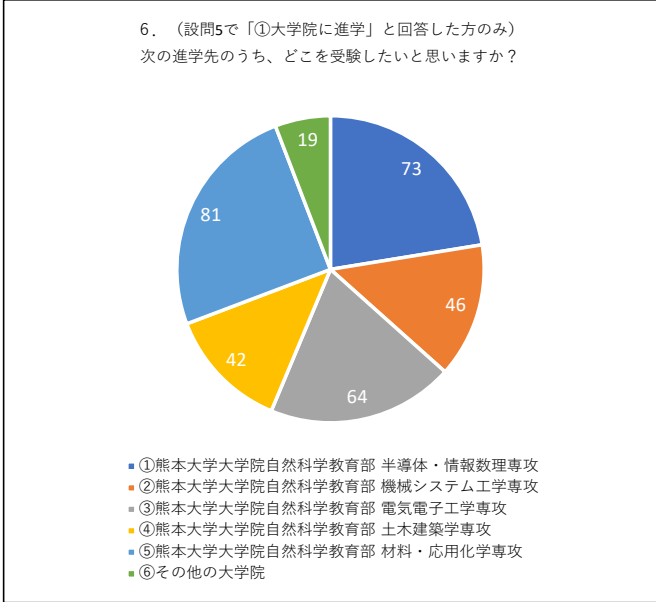
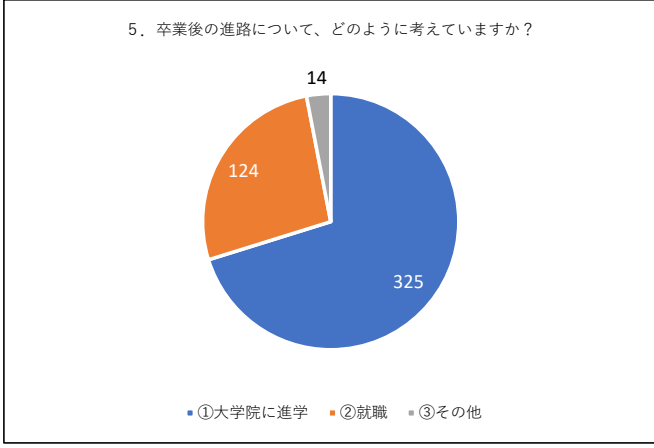
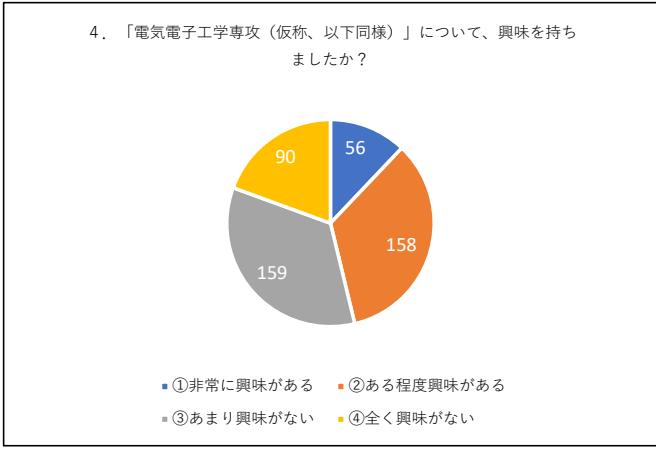
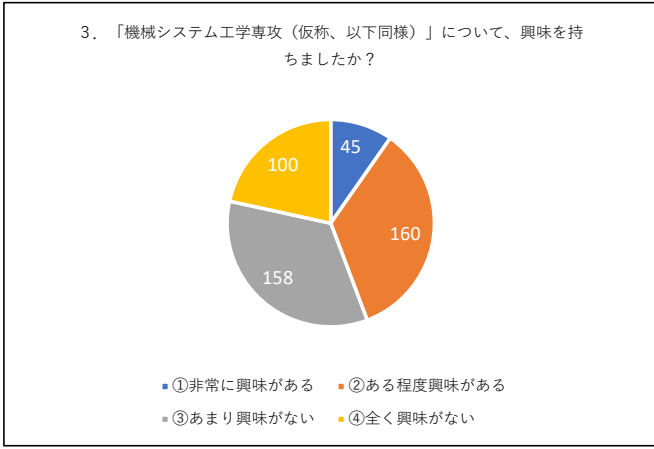
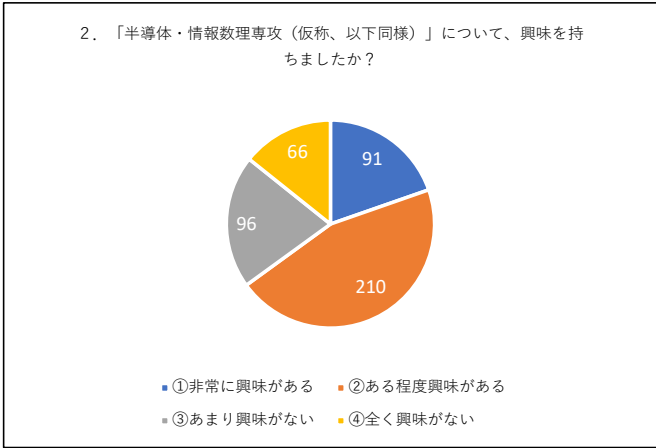
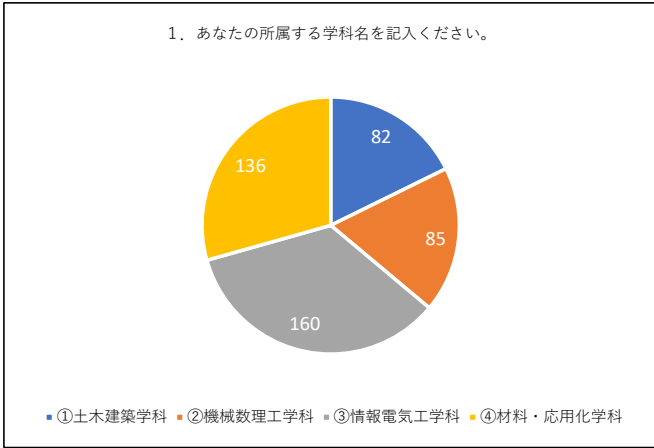
回答内容を分析した結果、「半導体・情報数理専攻 (仮称) が育成する人材について、実社会で必要だと思いますか?」という設問に対し、「①極めて必要である」と回答した者が 183 名、「②どちらかという必要である」と回答した者が 128 名であり、回答した者の 90% 以上が本専攻が育成する人材の必要性を評価している。

以上のことから、本専攻が育成する人材については、社会的要請に応えるものとなっており、社会的な人材需要の見通しを踏まえた計画である。

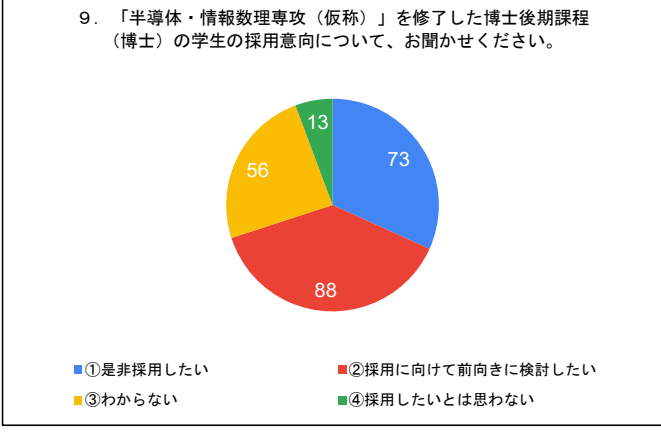
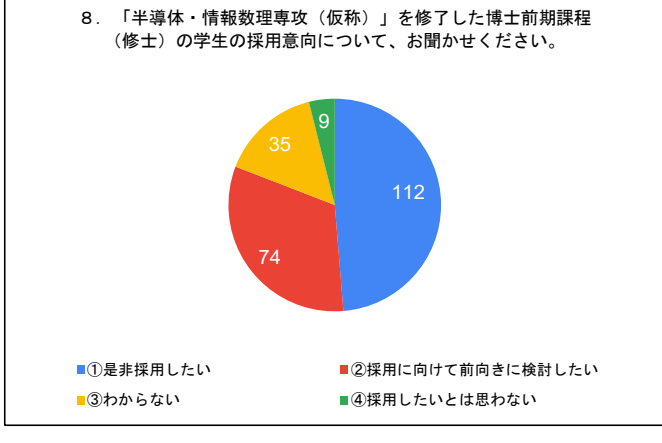
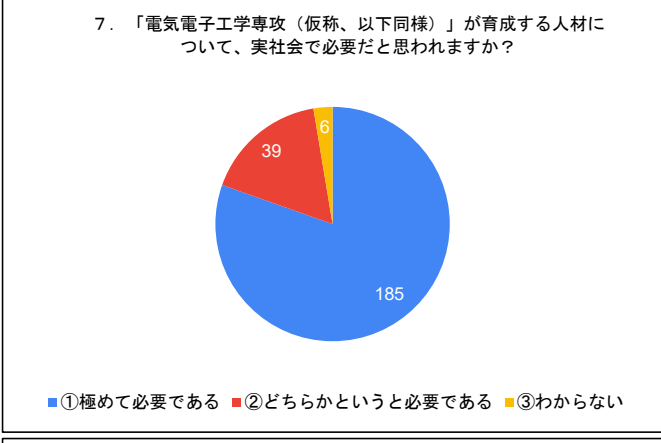
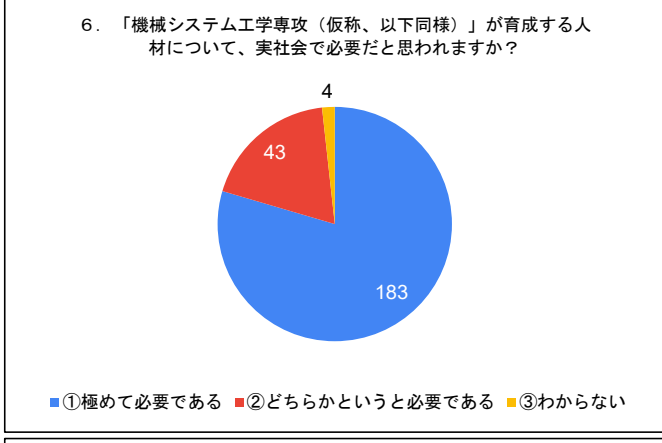
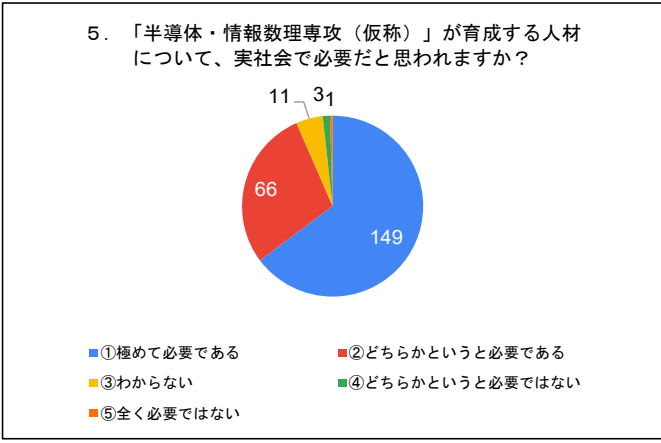
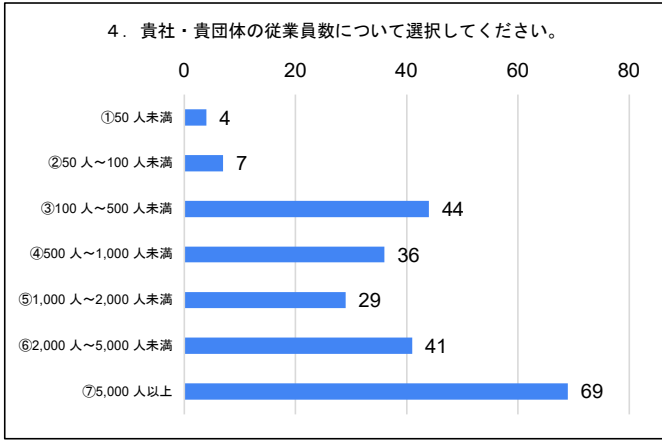
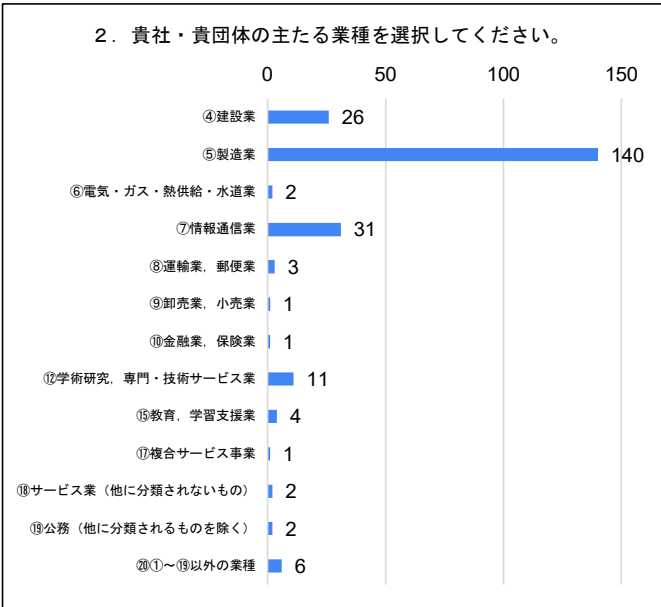
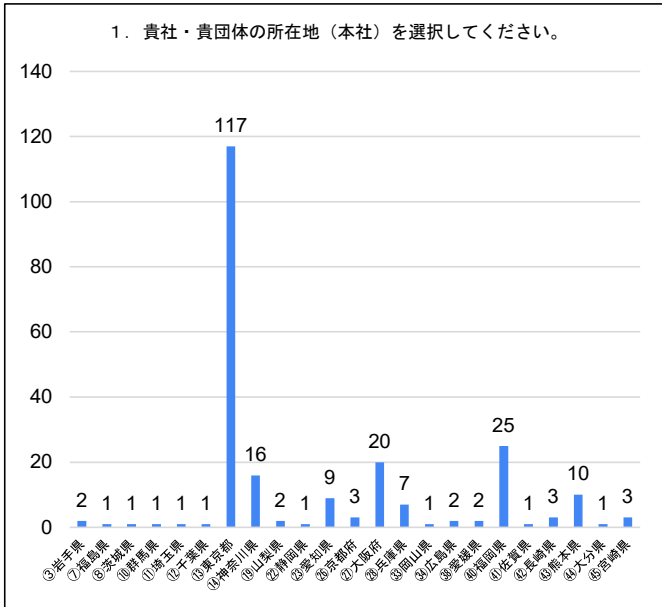
資料目次

資料 1	熊本大学工学部 3 年次生へのアンケート調査結果	P. 2
資料 2	企業等へのアンケート調査結果	P. 5
資料 3	卒業生・修了生へのアンケート調査結果	P. 13
資料 4	アンケート調査時に配付した概要資料及びアンケート調査項目	P. 22

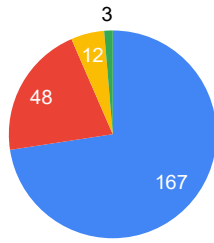
熊本大学工学部3年次生へのアンケート調査結果



企業等へのアンケート調査結果

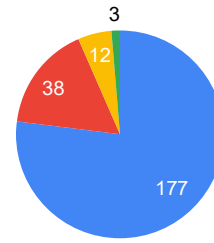


10. 「機械システム工学専攻」を修了した学生の採用意向について、お聞かせください。



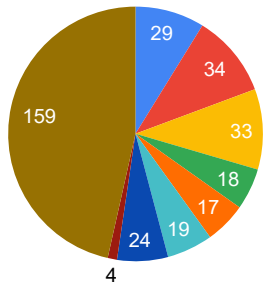
■①是非採用したい ■②採用に向けて前向きに検討したい
■③わからない ■④採用したいとは思わない

11. 「電気電子工学専攻」を修了した学生の採用意向について、お聞かせください。



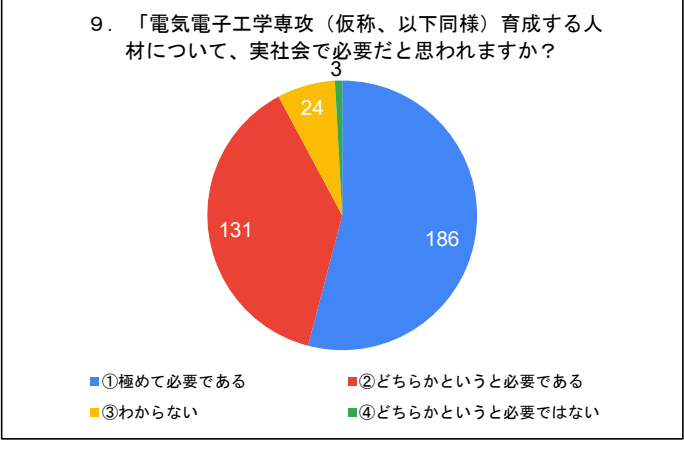
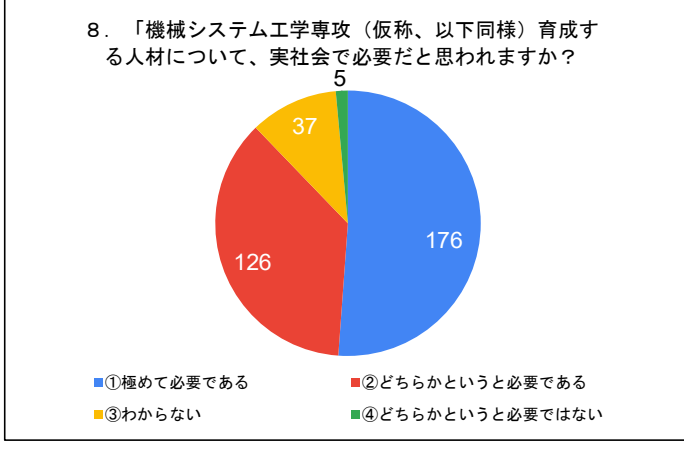
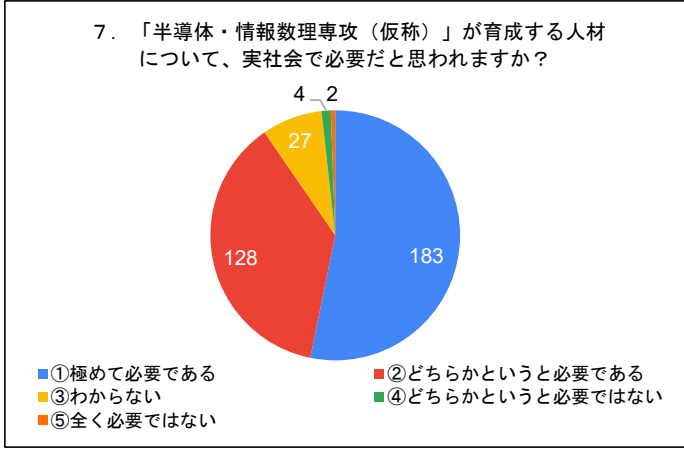
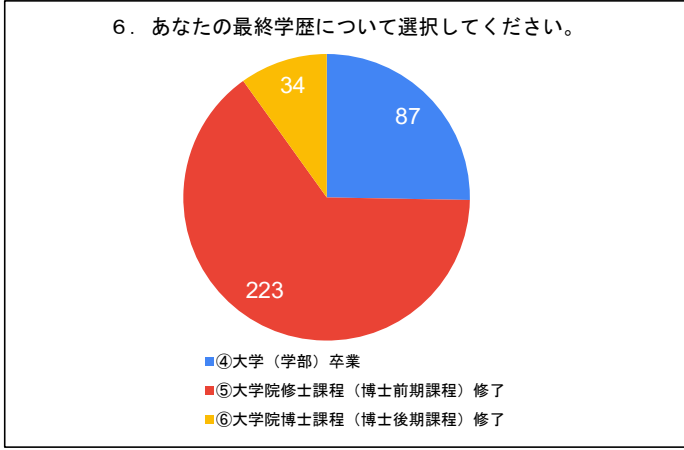
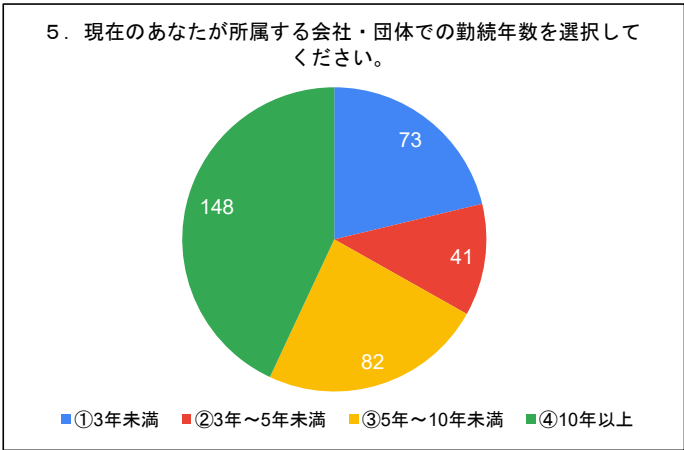
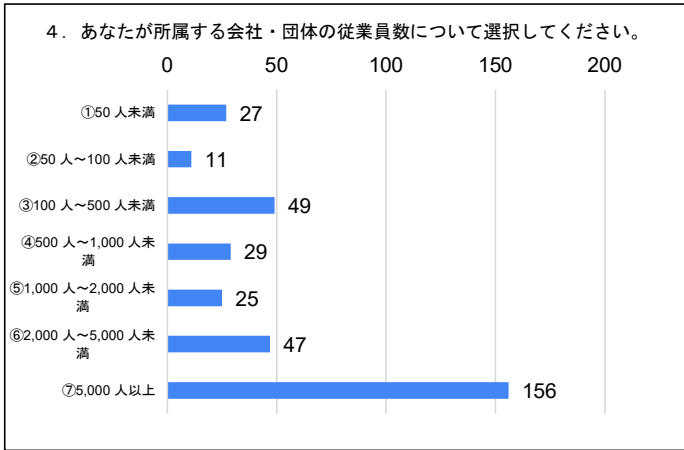
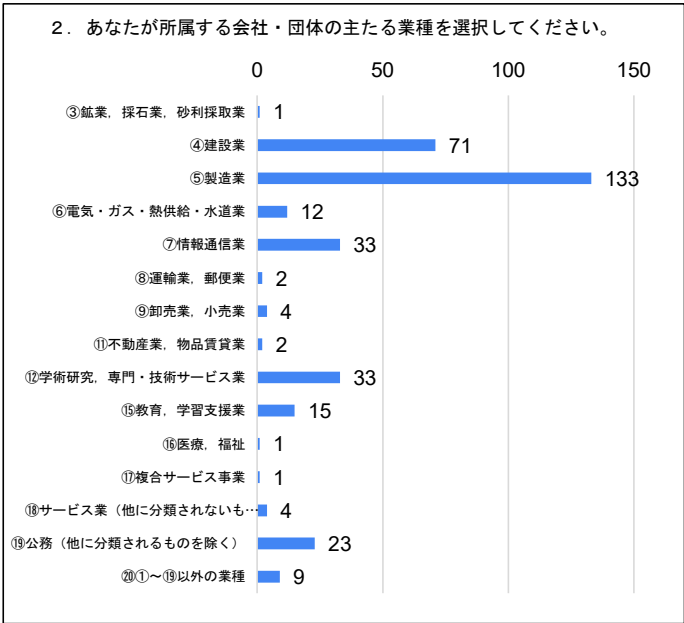
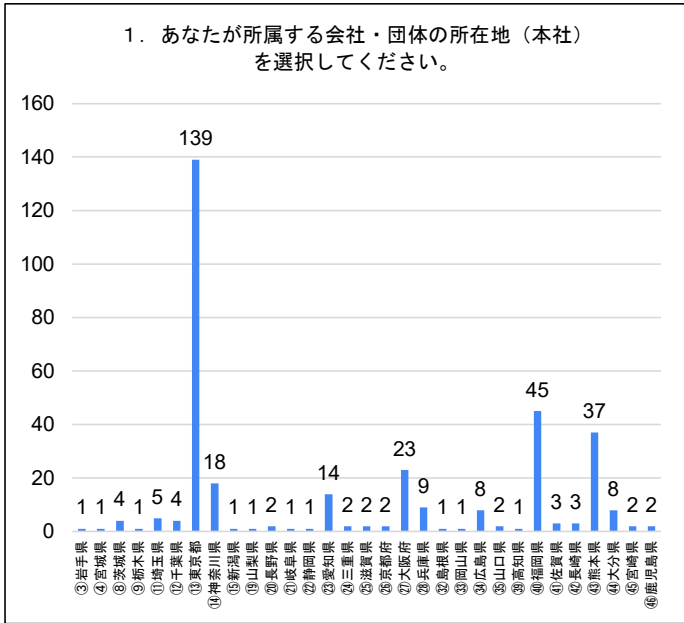
■①是非採用したい ■②採用に向けて前向きに検討したい
■③わからない ■④採用したいとは思わない

12. リカレント教育、リスキリングの観点から、貴社・貴団体の社員・職員を本学大学院に入学させたいと思われますか？（複数回答可）

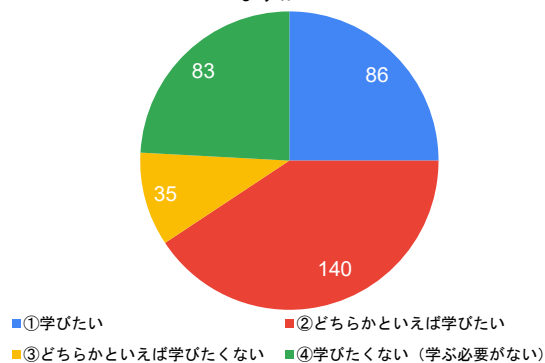


■①半導体・情報数理専攻に入学させたい (修士)
■②機械システム工学専攻に入学させたい (修士)
■③電気電子工学専攻に入学させたい (修士)
■④土木建築学専攻に入学させたい (修士)
■⑤材料・応用化学専攻に入学させたい (修士)
■⑥半導体・情報数理専攻に入学させたい (博士)
■⑦工学専攻に入学させたい (博士)
■⑧①～⑦以外の大学院に入学させたい
■⑨検討していない

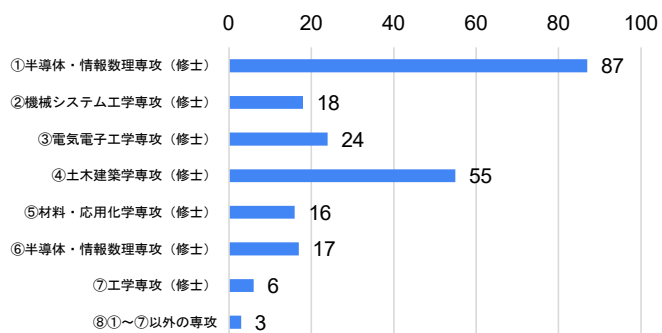
卒業生・修了生へのアンケート調査結果



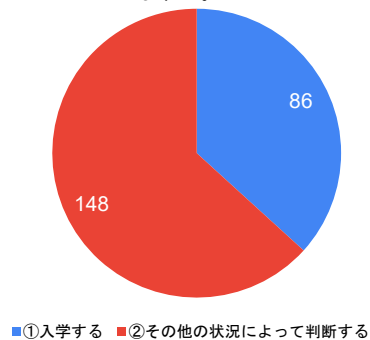
10. 熊本大学大学院自然科学教育部で学びたいと思いますか？



11. (設問10で①または②と回答した方のみ) どの専攻を受験したいと思いますか？



12. (設問11で①～⑦を回答した方のみ) 設問11で回答した大学院に合格した場合、入学を希望しますか。



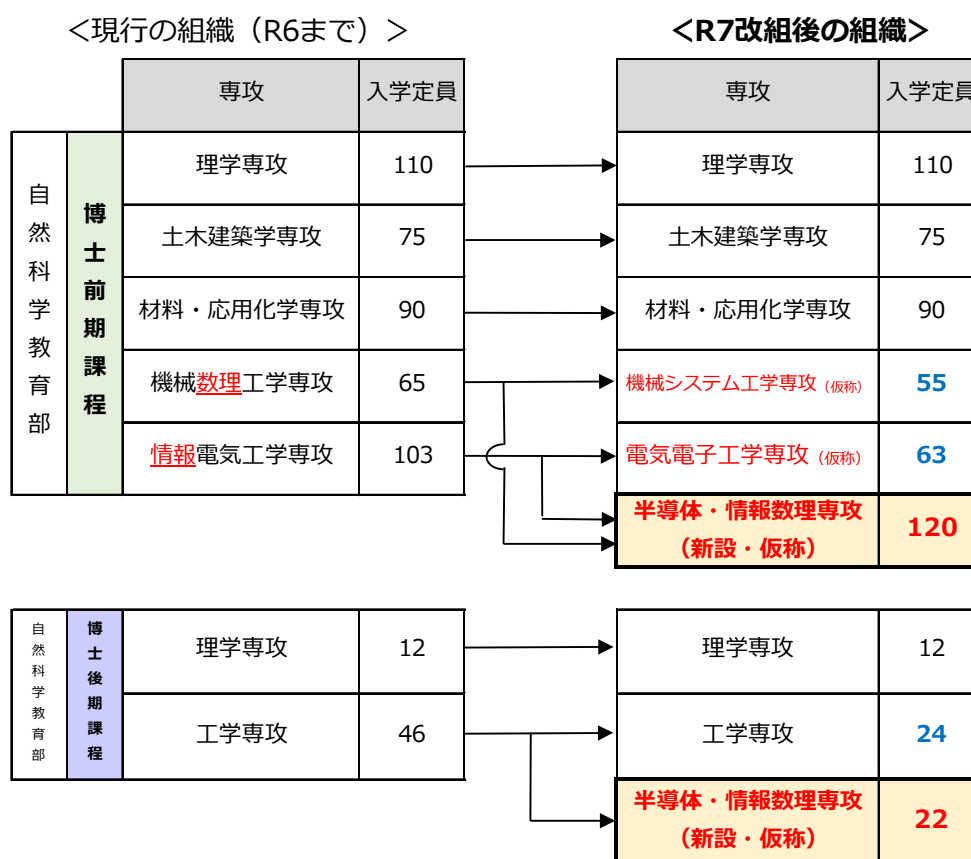
【令和7年4月改組予定】

自然科学教育部改組の概要・理念

熊本大学は、大学院自然科学教育部（博士前期課程（修士）・博士後期課程（博士））に、新たに「**半導体・情報数理専攻（仮称）**」を設置します。

本学では、2030年までを見据えた中長期的なビジョンとして、「熊本大学イニシアティブ2030」を策定し、“地域と世界に開かれ、共創を通じて社会に貢献する教育研究拠点大学”の実現に向けて、「教育」、「研究」、「社会との共創・医療」の3つの戦略を立て、育成する人材像として「DX時代の国際社会で求められるリテラシーを身に付け、多様性に富んだ国際社会における課題に対して解決策を創出し、その実践を主導するための行動力を兼ね備えた世界に通用するDX人材の育成」を掲げ、全学を挙げて「グローバルDX人材」の育成に取り組んでいます。これらの戦略を踏まえ、半導体・DXに関連する教育研究を推進するために、大学院自然科学教育部では、新たに「**半導体・情報数理専攻（仮称）**」を設置します。本専攻の博士前期課程では、学士課程と連携した6年一貫的教育体制の下、数理・データサイエンス、情報工学、半導体デバイス工学に関する確かな基礎学力と論理的思考能力を基盤に、より高度な専門知識・技術を身に付け、社会の持続的発展に貢献できる人材を育成すること、博士後期課程では、地域と国際社会に貢献する指導的役割を担う高度な専門性と研究能力を備えた人材を育成することを目標としています。

「半導体・情報数理専攻」の新設にともない、既存の機械数理工学専攻を「**機械システム工学専攻（仮称）**」へ、情報電気工学専攻を「**電気電子工学専攻（仮称）**」に改組します。機械システム工学専攻では、機械工学にとって基盤となる機械要素技術（熱・流体、エネルギー変換、材料強度、精密加工）および機械システム・プロセス（コンピュータ技術を駆使した信号の計測処理・システム制御）に関する基礎および応用の教育・研究を通して高度な研究能力や課題発見力・解決能力などの実践力を育成します。一方、電気電子工学専攻（仮称）では、電気工学分野（エネルギー、デバイスに関連する科目）を主に履修することで、電気エネルギーに関する諸問題をグローバルな立場から世界をリードして解決できる人材を育成するとともに、計測、信号処理、制御などの電子工学分野の基礎技術を深化したネットワーク化や小型化省電力化などの情報および電気分野の技術を積極的に取り入れ、新しいものづくりを担う実践的人材の育成を行います。



本資料の内容は、構想中のものであり、今後変更する場合があります。

半導体・情報数理専攻（博士前期課程）（新設・仮称）

半導体・情報数理専攻（博士前期課程）（新設・仮称）		学位：修士（工学）または修士（情報学）	募集人員：120名
【育成する人材像】 半導体・情報数理分野に関する確かな基礎学力と論理的思考能力を基盤に、より高度な専門知識・技術を身につけた上で、社会が抱える諸問題を解決するために必要となる新たな技能を学び応用する能力を併せ持ち、創造力かつ柔軟な思考により新たな技術を創出することができる人材を育成します。			
情報数理教育プログラム（仮称）		学位：修士（工学）または修士（情報学）	
【育成する人材像】 情報を基盤とした社会において必要となる基盤的リテラシー（数理・データに関する科学と工学の基礎と応用の素養）を身につけ、高度情報化社会における基盤・応用技術として位置づけられる情報通信工学や計算機工学などの情報工学全般に亘る分野、確率解析や統計数学などの数理工学全般に亘る分野において、高度な専門能力と高い見識を備え、グローバル化した世界で広い視野と高い倫理観を持って活躍できる高度情報専門技術者・研究者として、1)多様に变化する社会の要請に対し、高度の専門能力を駆使して幅広い視野から柔軟かつ迅速に対応できる人材、2)新しい技術を自ら創出して課題を解決できる創造的能力を備えた人材、3)高度情報化社会をリードする意欲に富み、かつ地域や国際社会への貢献に対する使命感をもった人材を育成します。		【修了後の進路】 大学院博士後期課程進学、IT関連企業、半導体関連企業、金融機関、製造業、流通・サービス、教育関連業、学校教員など	
半導体システム教育プログラム（仮称）		学位：修士（工学）または修士（情報学）	
【育成する人材像】 情報を基盤としたデータ駆動型社会を物理的に支える根幹技術である半導体工学の知識と、同社会の運用において必要不可欠な基盤的リテラシー（数理・データ科学の基礎と応用の素養）を身につけ、大規模集積回路・システムの設計、半導体デバイス・材料・製造プロセス技術などの半導体工学全般に亘る分野において、高度な専門能力と高い見識を備え、グローバル化した世界で広い視野と高い倫理観を持って活躍できる高度専門技術者・研究者として、1)多様に变化する社会の要請に対し、高度の専門能力を駆使して幅広い視野から柔軟かつ迅速に対応できる人材、2)新しい技術を自ら創出して課題を解決できる創造的能力を備えた人材、3)高度情報化社会をリードする意欲に富み、かつ地域や国際社会への貢献に対する使命感をもった人材を育成します。		【修了後の進路】 大学院博士後期課程進学、IT関連企業、半導体関連企業、製造業、教育関連業、学校教員など	

半導体・情報数理専攻（博士後期課程）（新設・仮称）

半導体・情報数理専攻（博士後期課程）（新設・仮称）		学位：博士（工学）または博士（情報学）	募集人員：22名
【育成する人材像】 半導体、情報、応用数理およびその関連分野で、基礎的な研究を重視しつつ、高度化している最先端の技術とその背景となる理論を修得し、さらに進化させることによって、創造的かつ実践的に学問の発展、人類の福祉に主導的に貢献できる人材を育成します。			
先端情報数理教育プログラム（仮称）		学位：博士（工学）または博士（情報学）	
【育成する人材像】 情報を基盤とした社会において必要となる基盤的リテラシー（数理・データに関する科学と工学の基礎と応用の素養）を身につけ、数理・データサイエンス、情報工学の素養を基盤として、各専門分野で自立し、かつ、地域と国際社会で指導的役割を發揮できる高度情報専門人材を育成します。特に、情報通信、応用数理およびその関連分野で、高度な専門能力と高い見識を備え、創造的かつ実践的に学問の発展や人類の福祉に寄与することのできる人材を育成します。		【修了後の進路】 IT関連企業、半導体関連企業、金融機関、製造業、流通・サービス、教育関連業、国内外の大学・研究機関など	

本資料の内容は、構想中のものであり、今後変更する場合があります。

先端半導体システム教育プログラム（仮称）	学位：博士（工学）または博士（情報学）
<p>【育成する人材像】</p> <p>情報を基盤としたデータ駆動型社会を物理的に支える根幹技術である半導体工学の知識と、同社会の運用において必要不可欠な基盤のリテラシー（数理・データ科学の基礎と応用の素養）を身につけ、学士課程および博士前期課程教育で培われた半導体デバイス工学の素養を基盤として、各専門分野で自立し、かつ、地域と国際社会で指導的役割を發揮できる高度専門人材を育成します。特に、半導体工学及びその関連分野で、高度な専門能力と高い見識を備え、創造的かつ実践的に学問の発展や人類の福祉に寄与することのできる人材を育成します。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>大学院博士後期課程進学、IT関連企業、半導体関連企業、製造業、教育関連業、学校教員など</p>

機械システム工学専攻（博士前期課程）（仮称）

機械システム工学専攻（博士前期課程）（仮称）	学位：修士（工学）または修士（学術）	募集人員：55名
<p>【育成する人材像】</p> <p>機械系に関する基礎から応用までのものづくり教育に取り組み、広く社会で活躍できる高度な研究者・技術者を育成します。特に機械要素技術に基づく機械設計・製作分野と、コンピュータ技術に基づく機械制御分野に分けて教育を行い、今日の産業界の求めに即したものづくりや制御をより高度化した人材を育成します。</p>		
機械工学教育プログラム（仮称）	学位：修士（工学）または修士（学術）	
<p>【育成する人材像】</p> <p>ものづくりの横断的技術である機械工学を、複雑化した社会や環境・エネルギーなどの総合的な視野から捉えることのできる高度な専門能力を有する人材として機械要素技術（熱・流体、エネルギー変換、材料強度、精密加工）及び機械システム・プロセス（コンピュータ技術を駆使した信号の計測処理・システム制御）に関する基礎及び応用に通じた、高い専門性や問題意識及び解決能力を持つ者を育成します。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>大学院博士後期課程進学、ものづくりの基幹産業となる機械・電機分野などの製造業、IT企業など</p>	
機械システム教育プログラム（仮称）	学位：修士（工学）または修士（学術）	
<p>【育成する人材像】</p> <p>ものづくりの横断的技術である機械システムを、複雑化した社会や環境・エネルギーなどの総合的な視野から捉えることのできる高度な専門能力を有する人材として機械システム・プロセス（コンピュータ技術を駆使した信号の計測処理・システム制御）及び機械要素技術（熱・流体、エネルギー変換、材料強度、精密加工）に関する基礎及び応用に通じた、高い専門性や問題意識及び解決能力を持つ者を育成します。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>大学院博士後期課程進学、ものづくりの基幹産業となる機械・電機分野などの製造業、IT企業など。</p>	

電気電子工学専攻（博士前期課程）（仮称）

電気電子工学専攻（博士前期課程）（仮称）	学位：修士（工学）または修士（学術）	募集人員：63名
<p>【育成する人材像】</p> <p>電気工学と電子工学は情報社会の基盤となる学術分野であることから、地域や国際社会の高度化に立ちはだかる課題を解決するために、電気・電子工学を基礎とし、グローバルな視点と強いリーダーシップを有する人材が求められており、このような高度専門技術者や研究者の育成が不可欠です。</p> <p>本専攻では、以下のような創造的で柔軟な思考を備えた高度専門技術者・研究者を育成します。</p> <p>1)多様に変化する社会の要請に対し、高度の専門能力を駆使して幅広い視野から柔軟かつ迅速に対応できる人材</p> <p>2)新しい技術を自ら創出して課題を解決できる創造的能力を備えた人材</p> <p>3)高度情報化社会をリードする意欲に富み、かつ地域や国際社会への貢献に対する使命感をもった人材</p>		

本資料の内容は、構想中のものであり、今後変更する場合があります。

電気工学教育プログラム（仮称）		学位：修士（工学）または修士（学術）
<p>【育成する人材像】</p> <p>社会基盤を支える技術・研究領域である電気工学分野、とりわけ、電力インフラや電気エネルギーとその利用に関する複雑かつ幅広い学問的・社会的要請に柔軟に対応でき、培った専門的知識と創造性に立脚した課題解決能力を用いて、地域や国際社会に貢献できる高度専門技術者や研究者を育成します。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>大学院博士後期課程進学、電力会社、電気・電子関連メーカー企業、運輸機械製造業、鉄鋼・重工業等</p>	
電子工学教育プログラム（仮称）		学位：修士（工学）または修士（学術）
<p>【育成する人材像】</p> <p>健全かつ均衡のとれた社会の発展において、ヒトと環境に関わる情報社会の基盤となる電子通信・計測制御工学分野とその複合領域に関する広範な専門能力を備え、それを活かして創造的かつ実践的に人類の福祉に寄与することのできる高度専門技術者・研究者を育成します。</p>	<p>【修了後の進路】</p> <p>大学院博士後期課程進学、電気・電子関連メーカー企業、通信関連企業、運輸機械製造業、鉄鋼・重工業等</p>	

アドミッション・ポリシー

半導体・情報数理専攻（博士前期課程）（新設・仮称）

数理・データサイエンス、情報工学、半導体工学に関する確かな基礎学力と論理的思考能力を基盤に、より高度な専門知識・技術を有し、時代の変化に対応して常に自己を成長させ、他者と協働することにより社会の持続的発展に貢献できる人材を育成するべく、次のような人を求めています。

1. 深い専門知識と豊かな教養を身につけ、高い倫理観を持って新しい課題や困難な問題に積極的に取り組む意欲がある人
2. 様々な学問に関心を持ち、その基礎や応用を深く理解したい人
3. 工学・情報学をもって人類の福祉に貢献しようという高い公徳心を持つ人
4. ものづくりの現場で科学技術や知的財産をもって貢献したい人
5. 国際的視野を持つ創造性豊かな技術者・研究者を目指している人

半導体・情報数理専攻（博士後期課程）（新設・仮称）

数理・データサイエンス、情報工学、半導体工学に関する最先端レベルの専門知識・技術と高い研究遂行能力を有し、時代の変化に対応して常に自己を成長させ、国内外における様々な分野の他者と協働することにより、社会の持続的発展に貢献できる人材を育成するべく、次のような人を求めています。

1. 深い専門知識と豊かな教養を身につけ、高い倫理観を持って新しい課題や困難な問題に積極的に取り組む意欲がある人
2. 様々な学問に関心を持ち、その基礎や応用を深く理解したい人
3. 工学・情報学をもって人類の福祉に貢献しようという高い公徳心を持つ人
4. ものづくりの現場で科学技術や知的財産をもって貢献したい人
5. 国際的視野を持つ創造性豊かな技術者・研究者を目指している人

本資料の内容は、構想中のものであり、今後変更する場合があります。

機械システム工学専攻（博士前期課程）（仮称）

機械系に関する基礎から応用までのものづくり教育に取り組み、広く社会で活躍できる高度な研究者・技術者の育成を目的としています。

以上のような観点から、本専攻は、次のような人を求めています。

1. 機械要素技術やコンピュータ技術による生産プロセスに関する知識と、それらを基礎から応用まで展開する知識を修得し、高い倫理観を持って新しい課題や困難な問題に積極的に取り組む意欲がある人
2. 深い専門知識と豊かな教養を身に付け、科学技術、特に機械系の分野で人類の幸福や秩序ある社会の推進に貢献することができる人
3. 国際的な視野とレベルを持って活躍する高度な技術者や教育者を目指している人

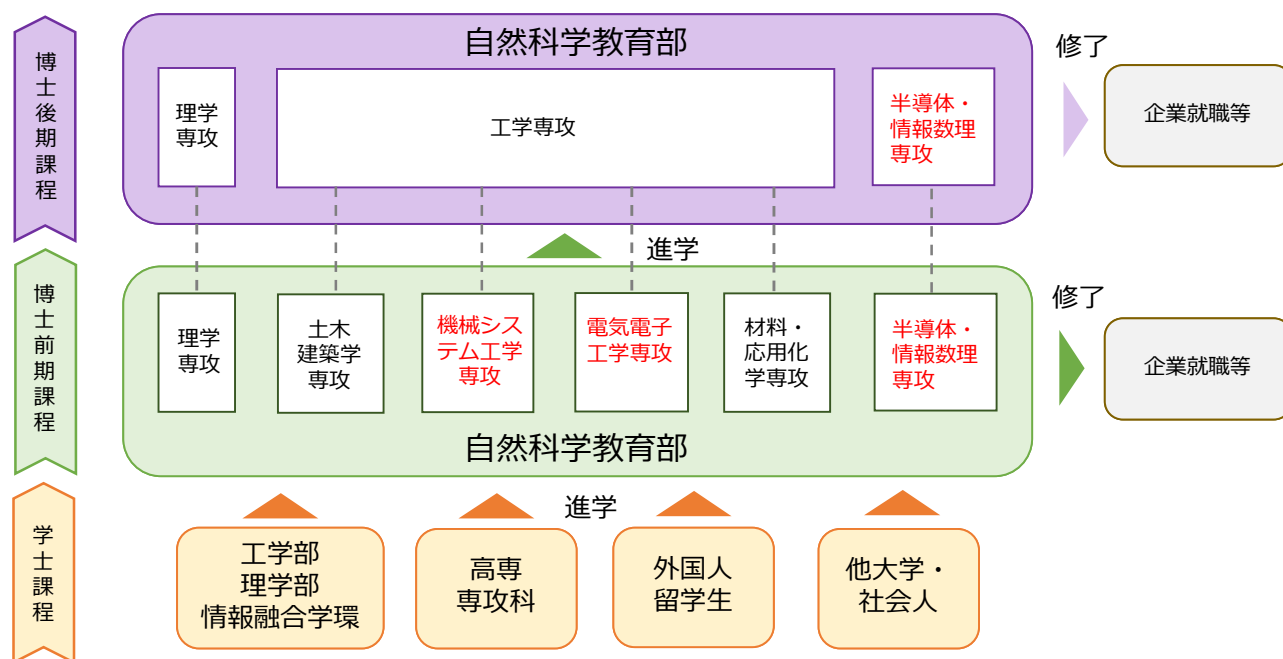
電気電子工学専攻（博士前期課程）（仮称）

電気電子分野の多様な社会的ニーズに対応できる基礎から応用までの知識を有し、創造力かつ柔軟な思考を備えると共に新たな技術を創出し、課題を解決できる高度な研究者・技術者の育成を目的としています。本専攻における教育研究対象は、電子通信工学、人間工学、エネルギー工学、電力システム工学、パルスパワー工学、計測・制御・信号処理等を含んだ広範囲の領域に及んでいます。したがって、本専攻では、確実な専門基礎知識を持っているだけではなく、幅広い領域の工学基礎知識を柔軟な思考によって自分の専門に活かすことができ、かつ新しい課題を発見し解決する意欲を持った学生の入学を望んでいます。

以上のような観点から、本専攻は、次のような人を求めています。

1. 不思議なものに対する飽くなき好奇心を持ち、論理的探求心の旺盛な人
2. 様々な学問に関心を持ち、その基礎や応用を深く理解したい人
3. 工学をもって人類の福祉に貢献しようという高い公徳心を持つ人
4. 電気電子分野のものづくりに科学技術や知的財産をもって貢献したい人
5. 国際的視野を持つ創造性豊かな技術者・研究者に成長しようという意志を持つ人

博士前期課程入学から博士後期課程までの接続



本資料の内容は、構想中のものであり、今後変更する場合があります。

半導体・情報数理専攻（博士前期課程）（新設・仮称）

数理・データサイエンス、情報工学、半導体システムに共通する基盤的知識を獲得するための「専門基礎科目」ならびに異分野交流の助けとなる広範な知識や国際交流を円滑に進めるための英語教育を提供する「専攻共通科目」を情報数理教育プログラムと半導体システム教育プログラムの共通科目として設定します。また、数理・データサイエンスならびに情報工学における専門知識、あるいは、半導体システムの設計・製造に関する専門知識に特化した「専門応用科目」を各教育プログラムの選択科目として設定します。「専門基礎科目」の中には、数理・情報系のバックグラウンドを持たない入学生に対しては、数理・情報系の基礎科目、半導体システムに関するバックグラウンドを持たない入学生に対しては、電気・電子系の基礎的科目をリメディアル教育系科目として設けることで、学部卒業時の専門とは異なる分野からの入学者の学修にも対応します。このようなカリキュラム編成により、多様な学術的背景の入学者を、数理・情報工学や半導体工学の深い専門知識とそれらを活用できるコミュニケーション能力を備えた高度専門人材として輩出することを目指します。

● 情報数理教育プログラム（新設・仮称）

数理・データサイエンス、情報工学、半導体デバイス工学の専門領域で共通して必要となる数理・データサイエンス・AIに関する基盤的リテラシーを修得する「専門基礎科目」および現実社会で必要となる他分野を理解する力、専門知識・技術を俯瞰的な立場から活用できる力、科学・技術分野で必須とされる英語運用能力を修得する「専攻共通科目」を配置します。「専門基礎科目」の中には、情報数理に関する基礎科目も含め、情報・数理を学術的背景として持たない入学生の学習にも対応します。さらに、ソフトウェア分野、ハードウェア分野、計算機応用分野、非線形解析分野、確率解析分野、統計数学分野、情報数学分野、半導体分野の主要な科目を「専門応用科目」として配置し、自らの専門領域の必要性に応じて選択できるようカリキュラムを編成します。

● 半導体システム教育プログラム（新設・仮称）

半導体工学および情報工学、数理・データサイエンスで共通して必要となる基盤的リテラシーを修得するための「専門基礎科目」、実社会において必要となる広い知識や国際活動における必須コミュニケーションツールである英語運用能力などを修得するための「専攻共通科目」、また、半導体デバイスの製造・設計やソフトウェア・ハードウェア分野の情報工学など専門領域の理解を深化させるための「専門応用科目」を配置します。「専門基礎科目」の中には、電気・電子、情報、数理、材料、化学、機械系の基礎的科目も含めることで、半導体を学術的背景として持たない入学生の学修にも対応します。また、他大学との連携講義を設定して、本学のみでカバーできない半導体分野の受講機会を設けます。このようなカリキュラム編成により、多様な学術的背景を持つ入学者の受け入れを可能とし、かつ、半導体工学の深い専門知識やそれを社会で活かせるコミュニケーション能力を備えた高度専門人材を輩出する教育を行います。

半導体・情報数理専攻（博士後期課程）（新設・仮称）

本専攻では、数理・データサイエンス、情報工学、半導体システムに共通する基盤的知識を獲得するための「専門基礎科目」、異分野研究者との協働や英語での国際協働の機会を提供する「専攻共通科目」を先端情報数理教育プログラムと先端半導体システム教育プログラムの共通科目として設定します。また、数理・データサイエンスならびに情報工学における専門知識、あるいは、半導体システムの設計・製造に関する専門知識に特化した「専門応用科目」を各教育プログラムの選択科目として設定します。

このようなカリキュラム編成により、数理・情報工学や半導体工学の専門知識を高いレベルで備え、国内外の様々な分野の研究者・開発者と協働として、自発的に社会問題を発見、解決できる高度専門人材を輩出することを目指します。

● 先端情報数理教育プログラム（新設・仮称）

指導的役割を担う高度情報専門人材の育成に資する数理・データサイエンス、情報工学、半導体デバイス工学の専門領域で共通した数理・データサイエンス・AIに関する基盤的リテラシーを修得する「専門基礎科目」および現実社会で必要となる他分野を理解する力、専門知識・技術を俯瞰的な立場から活用できる力、科学・技術分野で必須とされる英語運用能力を修得する「専攻共通科目」を配置します。さらに、情報通信領域や応用数理領域における主要な科目を「専門応用科目」として配置し、自らの専門領域の必要性に応じて選択できるようカリキュラムを編成します。

本資料の内容は、構想中のものであり、今後変更する場合があります。

● 先端半導体システム教育プログラム（新設・仮称）

半導体工学および情報工学、数理・データサイエンスで共通して必要な基盤的リテラシーを修得するための「専門基礎科目」、異分野の専門家や海外の研究者との協働を高いレベルの相互理解の下で行うことを可能とするためのコミュニケーション能力などを養うための「専攻共通科目」、半導体デバイスの製造・設計やソフトウェア・ハードウェア分野の情報工学など専門領域について、最先端の知識を得るための「専門応用科目」を配置します。また、実際の半導体デバイス製造プロセスを実際に体験する機会を提供する「半導体デバイス実習」、自身の専門以外の領域について深いグループディスカッションを行う「異分野交流ゼミナール」などの特色ある科目を設定し、半導体工学の理解およびコミュニケーション能力をさらに先鋭化させます。このようなカリキュラム編成により、半導体工学の深い専門知識および経験を有し、指導的な役割を果たすことができる高度専門人材を輩出する教育を行います。

機械システム工学専攻（博士前期課程）（仮称）

製造業におけるものづくりの基幹技術である機械工学と高度なシステム技術によって広範な問題解決に活かせるグローバルな視野を持つ技術者、研究者、教育者の育成を目的としています。

- ① 本専攻においては、学部教育から大学院博士前期課程までの6年一貫的教育を実践することで、基礎から応用までのものづくり教育に取り組み、地域や国際社会で活躍できる高度な研究者・技術者を育成します。
- ② 専門科目における各分野に精通する人材の育成に加えて、総合科学技術共同教育センター（GJEC）での教育に基づき、広い視野・柔軟な創造力、および工学の領域を越えて広く理工系人材としてグローバルな視点で俯瞰できる資質を兼ね備えた人材の育成を行います。

「専攻共通科目」として、各教育プログラムにおける専門領域を深化させるための講義「工業数学特論Ⅰ」「工業数学特論Ⅱ」を、「全専攻共通専門科目」として、企業等での経験により社会で必要とされる工学的な資質を体得させるための「インターンシップⅠ」、国際会議での発表を推奨するための「特別プレゼンテーションⅠ」を配置した上で、2つの教育プログラムを設けます。

● 機械工学教育プログラム（仮称）

機械要素技術（熱・流体、エネルギー変換、材料強度、精密加工）を主とした工学分野の知識・技術を視野に入れた、機械工学にとって基盤となる要素技術を中心とする教育・研究を通して、高度な研究能力や課題発見力・解決能力などの実践力を育成します。

● 機械システム教育プログラム（仮称）

生産プロセス（コンピュータ技術を駆使した信号の計測処理・システム制御）に関する知識・技術を主とした知的生産システムを視野に入れた、高い専門性や問題意識及び解決能力などの実践力を育成します。

電気電子工学専攻（博士前期課程）（仮称）

学部教育で工学一般の基礎領域と電気工学・電子工学分野の専門領域を学修した学生に対して、それぞれの分野での最先端の専門科目を教授すると共に、学生個々の研究課題を設定し、課題解決に向けた問題のモデル化を含めた研究手法を修得させるための教育を通して、最先端の専門知識と応用能力を培い、地域や国際社会に貢献できる高度な技術者・研究者を育成する点に特色を有します。

「専攻共通科目」として、各教育プログラムにおける専門領域を深化させるための講義「先端科学特別講義Ⅰ」やゼミナール形式科目「プロジェクトゼミナールⅠ」を、「全専攻共通専門科目」として企業等での経験により社会で必要とされる工学的な資質を体得させるための「インターンシップⅠ」、さらには国際会議での発表を推奨するための「特別プレゼンテーションⅠ」を配置した上で、2つの教育プログラムを設けます。

電気・電子系の産業界における技術進歩や情勢変化は激しく、ベンチャー企業も含めて多角的な視野を有する人材が必要とされています。そのような現状を踏まえて本専攻では電気工学および電子工学の2つの分野の基礎から応用までの知識を備えた人材の育成を行います。

● 電気工学教育プログラム（仮称）

学部教育で工学一般の基礎領域と電気工学の専門課程を学修した学生に対して、電気エネルギー分野や環境・デバイス分野のより高度で最新の電気工学に関する専門科目群を主に教授します。電気工学に深く関連する電子工学教育プログラムの科目も履修できるよう構成し、専門性を深化させるだけでなく幅をもたせることで、応用能力をも獲得できるようカリキュラムを構成しています。また、本学の特徴であるパルスパワー工学分野の多彩な科目を配置し人材の育成を図っています。

本資料の内容は、構想中のものであり、今後変更する場合があります。

教育内容、カリキュラムの特徴

● 電子工学教育プログラム（仮称）

学部教育で工学一般の基礎領域と電子工学の専門課程を学修した学生に対して、情報社会の基盤となる電子通信・計測制御工学分野とその複合領域に関する最先端レベルの専門科目群を教授します。カリキュラムは学部教育で学修した環境情報処理分野、エネルギー制御分野を中核に、電子工学に関連する専攻内の他の教育プログラム（電気工学教育プログラム）の科目も履修可能とし、専門性の深化と応用展開に対応できるように編成しています。

学修支援、経済的支援

1. 学修支援・経済的支援

寺田寅彦フェローシッププログラム（博士後期課程学生対象）

- ・研究専念支援金毎月15万円(180万)
- ・研究費年額20万、自分の研究に自由に使える研究費も支給される
- ・授業料が全額免除される

Well-Being社会を先導する異分野横断型博士人材育成プログラム（博士後期課程学生対象）

- ・生活費相当額：毎月18万円、研究費年額40万
- ・研究費年額40万、自分の研究に自由に使える研究費も支給される

熊本大学大学院博士課程奨学金給付制度（KDS）

- ・給付対象者は、博士課程に在学する学生で、入学試験の成績、学業成績又は学術研究活動において、特に優秀な成果を修めたと認められる者
- ・支援対象額は、9月末までの修了予定者等は267,900円、左記以外の者は、535,800円

熊本大学大学院博士課程奨学制度（KWS）

- ・熊本大学大学院博士課程の学生をリサーチ・アシスタント又はティーチング・アシスタントとして雇用し、その対価として年間授業料の半額相当の経済的支援を行う

2. 留学等の海外渡航に関する支援

国際活動支援 A. 国際会議旅費・海外インターンシップ旅費

- ・国際会議発表：旅費（地域毎一律 * 旅費一覧表参照）+ 宿泊費（旅行日程 1泊当たり 5,000円）
- ・海外インターンシップ：旅費（地域毎一律）+ 宿泊費（旅行日程 1泊当たり 3,000円）

国際活動支援 B. 登録料・国内開催国際学会旅費

- ・国際会議参加登録料（国内外、オンライン開催）原則として一人あたりの上限3万円
- ・国際会議派遣旅費（国内開催）交通費および宿泊費一人あたり上限 7万円

独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)による奨学金

- ・自然科学教育部に所属する日本人学生を 1~12ヶ月程度海外協定校の研究室に派遣し、研究プロジェクトへの参加を通じ、研究力を強化しグローバルな視点を涵養することを目指しています
- ・支援内容：JASSO（独立行政法人日本学生支援機構）奨学金 月額 6万円~10万円

入学科・授業料（2023年11月現在）

入学科：282,200円

授業料：535,800円（年額）

本資料の内容は、構想中のものであり、今後変更する場合があります。

アンケート（在學生用）

工学部 土木建築学科、機械数理工学科、情報電気工学科、材料・応用化学科の3年次生が対象です。

本学への入学希望者の実数把握が目的のため、可能な限り多くの方のご意見、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

* 必須の質問です

1. 1. あなたの所属する学科を選択してください。 *

1つだけマークしてください。

- ①土木建築学科
- ②機械数理工学科
- ③情報電気工学科
- ④材料・応用化学科

以降の設問は、「熊本大学大学院自然科学教育部の改組構想（簡易版）」または「熊本大学大学院自然科学教育部の改組構想（詳細版）」をご覧ください。

2. 2. 「半導体・情報数理専攻（仮称、以下同様）」について、興味を持ちましたか？ *

1つだけマークしてください。

- ①非常に興味がある
- ②ある程度興味がある
- ③あまり興味がない
- ④全く興味がない

- 3。 3. 「機械システム工学専攻（仮称、以下同様）」について、興味を持ちましたか？ *

1つだけマークしてください。

- ①非常に興味がある
- ②ある程度興味がある
- ③あまり興味がない
- ④全く興味がない

- 4。 4. 「電気電子工学専攻（仮称、以下同様）」について、興味を持ちましたか？ *

1つだけマークしてください。

- ①非常に興味がある
- ②ある程度興味がある
- ③あまり興味がない
- ④全く興味がない

- 5。 5. 卒業後の進路について、どのように考えていますか？ *

1つだけマークしてください。

- ①大学院に進学
- ②就職
- ③その他

6. 6. (設問5で「①大学院に進学」と回答した方のみ)

次の進学先のうち、どこを受験したいと思いますか？

1つだけマークしてください。

- ①熊本大学大学院自然科学教育部 半導体・情報数理専攻
- ②熊本大学大学院自然科学教育部 機械システム工学専攻
- ③熊本大学大学院自然科学教育部 電気電子工学専攻
- ④熊本大学大学院自然科学教育部 土木建築学専攻
- ⑤熊本大学大学院自然科学教育部 材料・応用化学専攻
- ⑥その他の大学院

7. 7. (設問6で①～⑤を回答した方のみ)

設問6で回答した進学先に合格した場合、入学を希望しますか？

1つだけマークしてください。

- ①入学する
- ②併願校の合否によって判断する
- ③その他の状況によって判断する

8. 8. 「半導体・情報数理専攻」、「機械システム工学専攻」、「電気電子工学専攻」、「土木建築学専攻」、「材料・応用化学専攻」に期待すること、大学院へ進学する(進学しやすくする)ために必要なこと・望むこと(教育面、経済面、環境面等)などの意見・要望があれば、自由に記載してください。

アンケート（就職実績のある企業、修了後就職が想定される企業等）

就職実績のある企業、修了後就職が想定される企業等を対象としています。

本学への入学希望者の実数把握が目的のため、

可能な限り多くの方のご意見、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

* 必須の質問です

1. 1. 貴社・貴団体の所在地（本社）を選択してください。*

1つだけマークしてください。

- 北海道
- 青森県
- 岩手県
- 宮城県
- 秋田県
- 山形県
- 福島県
- 茨城県
- 栃木県
- 群馬県
- 埼玉県
- 千葉県
- 東京都
- 神奈川県
- 新潟県
- 富山県
- 石川県
- 福井県
- 山梨県
- 長野県
- 岐阜県
- 静岡県
- 愛知県
- 三重県
- 滋賀県
- 京都府
- 大阪府
- 兵庫県
- 奈良県
- 和歌山県

- 鳥取県
- 島根県
- 岡山県
- 広島県
- 山口県
- 徳島県
- 香川県
- 愛媛県
- 高知県
- 福岡県
- 佐賀県
- 長崎県
- 熊本県
- 大分県
- 宮崎県
- 鹿児島県
- 沖縄県

2. 2. 貴社・貴団体の主たる業種を選択してください。*

1つだけマークしてください。

- ①農業, 林業
- ②漁業
- ③鉱業, 採石業, 砂利採取業
- ④建設業
- ⑤製造業
- ⑥電気・ガス・熱供給・水道業
- ⑦情報通信業
- ⑧運輸業, 郵便業
- ⑨卸売業, 小売業
- ⑩金融業, 保険業
- ⑪不動産業, 物品賃貸業
- ⑫学術研究, 専門・技術サービス業
- ⑬宿泊業, 飲食サービス業
- ⑭生活関連サービス業, 娯楽業
- ⑮教育, 学習支援業
- ⑯医療, 福祉
- ⑰複合サービス事業
- ⑱サービス業 (他に分類されないもの)
- ⑲公務 (他に分類されるものを除く)
- ⑳①～⑱以外の業種

3. 3. ⑳①～⑱以外の業種と回答した方は業種を記入ください。

4。 4. 貴社・貴団体の従業員数について選択してください。 *

1つだけマークしてください。

- ①50人未満
- ②50人～100人未満
- ③100人～500人未満
- ④500人～1,000人未満
- ⑤1,000人～2,000人未満
- ⑥2,000人～5,000人未満
- ⑦5,000人以上

以降の設問は、「熊本大学大学院自然科学教育部の改組構想（簡易版）」または「熊本大学大学院自然科学教育部の改組構想（詳細版）」をご覧ください。

5。 5. 「半導体・情報数理専攻（仮称）」が育成する人材について、実社会で必要だと思われますか？ *

1つだけマークしてください。

- ①極めて必要である
- ②どちらかという必要である
- ③わからない
- ④どちらかという必要ではない
- ⑤全く必要ではない

- 6。 6. 「機械システム工学専攻（仮称、以下同様）」が育成する人材について、実社会で必要だと思われませんか？ *

1つだけマークしてください。

- ①極めて必要である
- ②どちらかという必要である
- ③わからない
- ④どちらかという必要ではない
- ⑤全く必要ではない

- 7。 7. 「電気電子工学専攻（仮称、以下同様）」が育成する人材について、実社会で必要だと思われませんか？ *

1つだけマークしてください。

- ①極めて必要である
- ②どちらかという必要である
- ③わからない
- ④どちらかという必要ではない
- ⑤全く必要ではない

- 8。 8. 「半導体・情報数理専攻（仮称）」を修了した博士前期課程（修士）の学生の採用意向について、お聞かせください。 *

1つだけマークしてください。

- ①是非採用したい
- ②採用に向けて前向きに検討したい
- ③わからない
- ④採用したいとは思わない

- 9。 9. 「半導体・情報数理専攻（仮称）」を修了した博士後期課程（博士）の *
学生の採用意向について、お聞かせください。

1つだけマークしてください。

- ①是非採用したい
 ②採用に向けて前向きに検討したい
 ③わからない
 ④採用したいとは思わない

- 10。 10. 「機械システム工学専攻」を修了した学生の採用意向について、お聞 *
かせください。

1つだけマークしてください。

- ①是非採用したい
 ②採用に向けて前向きに検討したい
 ③わからない
 ④採用したいとは思わない

- 11。 11. 「電気電子工学専攻」を修了した学生の採用意向について、お聞かせ *
ください。

1つだけマークしてください。

- ①是非採用したい
 ②採用に向けて前向きに検討したい
 ③わからない
 ④採用したいとは思わない

12. 12. リカレント教育、リスキリングの観点から、貴社・貴団体の社員・職員^{*}を本学大学院に入学させたいと思われませんか？（複数回答可）

当てはまるものをすべて選択してください。

- ①半導体・情報数理専攻に入学させたい（修士）
- ②機械システム工学専攻に入学させたい（修士）
- ③電気電子工学専攻に入学させたい（修士）
- ④土木建築学専攻に入学させたい（修士）
- ⑤材料・応用化学専攻に入学させたい（修士）
- ⑥半導体・情報数理専攻に入学させたい（博士）
- ⑦工学専攻に入学させたい（博士）
- ⑧①～⑦以外の大学院に入学させたい
- ⑨検討していない

13. 13. 新専攻および改組予定の「半導体・情報数理専攻」、「機械システム工学専攻」、「電気電子工学専攻」に期待すること、社会人学生が大学院へ入学するために必要なこと・望むこと（教育面、経済面、環境面等）などの意見・要望があれば、自由に記載してください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム

アンケート（企業等へ就職している社会人）

企業等へ就職している社会人を対象としています。

本学への入学希望者の実数把握が目的のため、

可能な限り多くの方のご意見、ご協力をいただきますようよろしくお願いします。

* 必須の質問です

1. 1. あなたが所属する会社・団体の所在地（本社）を選択してください。*

1つだけマークしてください。

- 北海道
- 青森県
- 岩手県
- 宮城県
- 秋田県
- 山形県
- 福島県
- 茨城県
- 栃木県
- 群馬県
- 埼玉県
- 千葉県
- 東京都
- 神奈川県
- 新潟県
- 富山県
- 石川県
- 福井県
- 山梨県
- 長野県
- 岐阜県
- 静岡県
- 愛知県
- 三重県
- 滋賀県
- 京都府
- 大阪府
- 兵庫県
- 奈良県
- 和歌山県

- 鳥取県
- 島根県
- 岡山県
- 広島県
- 山口県
- 徳島県
- 香川県
- 愛媛県
- 高知県
- 福岡県
- 佐賀県
- 長崎県
- 熊本県
- 大分県
- 宮崎県
- 鹿児島県
- 沖縄県

2. 2. あなたが所属する会社・団体の主たる業種を選択してください。*

1つだけマークしてください。

- ①農業, 林業
- ②漁業
- ③鉱業, 採石業, 砂利採取業
- ④建設業
- ⑤製造業
- ⑥電気・ガス・熱供給・水道業
- ⑦情報通信業
- ⑧運輸業, 郵便業
- ⑨卸売業, 小売業
- ⑩金融業, 保険業
- ⑪不動産業, 物品賃貸業
- ⑫学術研究, 専門・技術サービス業
- ⑬宿泊業, 飲食サービス業
- ⑭生活関連サービス業, 娯楽業
- ⑮教育, 学習支援業
- ⑯医療, 福祉
- ⑰複合サービス事業
- ⑱サービス業 (他に分類されないもの)
- ⑲公務 (他に分類されるものを除く)
- ⑳①～⑱以外の業種

3. 3. ⑳①～⑱以外の業種と回答した方は業種を記入ください。

4。 4. あなたが所属する会社・団体の従業員数について選択してください。 *

1つだけマークしてください。

- ①50人未満
- ②50人～100人未満
- ③100人～500人未満
- ④500人～1,000人未満
- ⑤1,000人～2,000人未満
- ⑥2,000人～5,000人未満
- ⑦5,000人以上

5。 5. 現在のあなたが所属する会社・団体での勤続年数を選択してください。 *

1つだけマークしてください。

- ①3年未満
- ②3年～5年未満
- ③5年～10年未満
- ④10年以上

6。 6. あなたの最終学歴について選択してください。 *

1つだけマークしてください。

- ①高等学校卒業
- ②高等専門学校（高専）卒業
- ③高等専門学校（高専専攻科）修了
- ④大学（学部）卒業
- ⑤大学院修士課程（博士前期課程）修了
- ⑥大学院博士課程（博士後期課程）修了
- ⑦その他

以降の設問は、「熊本大学大学院自然科学教育部の改組構想（簡易版）」または「熊本大学大学院自然科学教育部の改組構想（詳細版）」をご覧ください。

7. 7. 「半導体・情報数理専攻（仮称）」が育成する人材について、実社会で必要だと思われませんか？ *

1つだけマークしてください。

- ①極めて必要である
- ②どちらかという必要である
- ③わからない
- ④どちらかという必要ではない
- ⑤全く必要ではない

8. 8. 「機械システム工学専攻（仮称、以下同様）育成する人材について、実社会で必要だと思われませんか？ *

1つだけマークしてください。

- ①極めて必要である
- ②どちらかという必要である
- ③わからない
- ④どちらかという必要ではない
- ⑤全く必要ではない

- 9。 9. 「電気電子工学専攻（仮称、以下同様）育成する人材について、実社会 *
で必要だと思われますか？

1つだけマークしてください。

- ①極めて必要である
 ②どちらかという必要である
 ③わからない
 ④どちらかという必要ではない
 ⑤全く必要ではない

- 10。 10. 熊本大学大学院自然科学教育部で学びたいと思いませんか？ *

1つだけマークしてください。

- ①学びたい
 ②どちらかといえば学びたい
 ③どちらかといえば学びたくない
 ④学びたくない（学ぶ必要がない）

- 11。 11. （設問10で①または②と回答した方のみ）

どの専攻を受験したいと思いませんか？

1つだけマークしてください。

- ①半導体・情報数理専攻（修士）
 ②機械システム工学専攻（修士）
 ③電気電子工学専攻（修士）
 ④土木建築学専攻（修士）
 ⑤材料・応用化学専攻（修士）
 ⑥半導体・情報数理専攻（修士）
 ⑦工学専攻（修士）
 ⑧①～⑦以外の専攻

12. 12. (設問11で①～⑦を回答した方のみ)

設問11で回答した大学院に合格した場合、入学を希望しますか。

1つだけマークしてください。

- ①入学する
- ②その他の状況によって判断する

13. 13. 新専攻および改組予定の「半導体・情報数理専攻」、「機械システム工学専攻」、「電気電子工学専攻」に期待すること、大学院へ入学するために必要なこと・望むこと（教育面、経済面、環境面等）などの意見・要望があれば、自由に記載してください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

Google フォーム